

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2020年10月)

1 ポイント

【内政】

- 3日～4日、「文化遺産の日」。
- 13日、新型コロナウイルスワクチン購入のためCOVAXファシリティに署名する旨発表。
- 13日、公立私立学校(小、中、高)において授業への出席が義務化。
- 16日、政府が8月31日に提出した5か年予算案が下院議会で承認され、19日に上院議会で提出。
- 20日、ムヒカ元大統領及びサンギネッティ元大統領が上院議員を辞任。
- 28日、上院議会で審議中の予算案に反対して公務員や教師等がストライキを実施。
- 29日、カルドソ観光大臣は、国境を閉鎖したまま迎える夏の観光シーズンにおいて観光業を経済的に支援し国内観光を促進するための計画「Plan Verano」を発表。

【外交】

- 4日、デルガド大統領府長官は、9月14日に国連で実施されたイスラエルによるパレスチナ国民の人権侵害を非難する決議に関して、仮に同決議が今日行われる場合、ウルグアイは投票を棄権するだろうと発言。
- 9日、デルガド大統領府長官及びブステージョ外務大臣は米国務長官戦略顧問を迎え会合を実施。
- 14日、ブステージョ外務大臣は米国でポンペオ米国務長官と会談を実施。
- 14日、第20回ウルグアイ・中国経済貿易協力合同委員会のオンライン技術会合開催。21日、第20回ウルグアイ・中国経済貿易協力合同委員会開催。
- 16日、第7回エクアドル・ウルグアイ政策協議調整メカニズム会合の実施。

2 本文

【内政】

1 文化遺産の日

3日から4日にかけて、「文化遺産の日」に際し、ウルグアイの歴史に関連する博物館、美術館、歴史的建造物が開放された。右に際し、サリーナス厚生大臣は、新型コロナウイルス感染を回避するために社会的距離の維持、アルコールによる消毒、マスク着用等の衛生措置を厳守するよう人々に呼びかけた。

2 COVAXファシリティへの署名

13日、デルガド大統領府長官は、ラカジェ・ポウ大統領が厚生省及び科学者グループ(GACH)と協議し、ウルグアイは新型コロナウイルスのワクチン購入国のリストに加わるため、世界保健機構(WHO)のCOVAXファシリティに署名する旨決定したと発表した。同長官は、COVAXファシリティへの署名はワクチン使用における優先権を確保するため250万米ドルの前払い金の支払いを含んでおり、コロナウイルス基金から拠出される旨強調した。また、ウルグアイ人口の約20%に相当する約75万人分のワクチン(150万回分)を申請し、まずは最も弱い立場にある人々に免疫をつけるために役立てられると説明した。

3 学校授業の出席義務化

13日、公立私立学校(小、中、高)において授業への出席が義務化された。これまで授業時間を短縮し入れ替え制にする等生徒の密集を回避する措置が取られていたが、出席は任意となっていた。一方、社会的距離の維持をはじめとする衛生規定に変更はない。

4 予算案が下院議会を通過

16日、政府が8月31日に提出した5か年予算案(当国では新政権発足後1年目に5年間の予算が立てられる)が下院議会承認され、19日に上院議会に提出された。最大45日間(12月3日まで)の審議期間が与えられ、修正が加えられ承認された場合には下院議会でも再度審議される。

5 ムヒカ元大統領とサンギネッティ元大統領の上院議員辞任

20日、上院議員を務めるムヒカ元大統領(85歳)及びサンギネッティ元大統領(84歳)が年齢や健康上の理由で辞任を表明した。辞任にあたり両名は別れのスピーチを行ったが、両名とも政治の場には引き続き参加する旨述べた。サンギネッティ上院議員の後任はタバレ・ビエラ議員、ムヒカ上院議員の後任はアレハンドロ・サンチェス議員が務める。

6 公務員及び教師によるストライキ

28日、公務員や教師等によるストライキが実施された。同ストライキは主に複数の国営機関における予算削減、解雇、給与削減等が含まれた上院議会審議中の予算案に反対するもの。

7 観光業救済措置「Plan Verano」の発表

29日、カルドソ観光大臣は、新型コロナウイルス感染症により国境を閉鎖したまま迎える夏の観光シーズンにおいて観光業を経済的に支援し国内観光を促進するための計画「Plan Verano」を発表した。同計画にはホテル業に対する付加価値税(IVA)の免税やレンタカー業及び飲食業に対する9%のIVA減税等が盛り込まれており、適用期間は12月から2021年4月4日までとなる予定。カルドソ観光大臣は、一連の措置が最終的な消費者価格に反映されるよう努める旨付言した。

【外交】

1 国連における人権決議の投票態度変更に関する発言

4日、デルガド大統領府長官は、9月14日に国連で実施された、イスラエルによるパレスチナ国民の人権侵害を非難する決議に関して、仮に同決議が今日行われる場合、ウルグアイは賛成票を投じる代わりに投票を棄権するだろうと述べ、右はこの15年間FA政権が取った立場からの変化を意味し、「非難」から「投票の棄権」に立場を変更するものであると述べた。

ブスティージョ外務大臣は、同国連決議におけるウルグアイの賛成票は、長いキャリアを有する外務省員の不本意な間違いにより生じた旨繰り返した。また、国連でウルグアイが投票する必要のある中東情勢に関連する全ての決議は見直しの対象となっている旨明らかにした。

2 米国高官のウルグアイ訪問

9日、デルガド大統領府長官及びブスティージョ外務大臣は、ブレヒビュール(Ulrich Brechbul)米国務長官戦略顧問を迎え会合を実施した。同会合は外務省で行われ、ジョージ駐ウルグアイ米国大使が同席した。同会合はブスティージョ外務大臣の米国ワシントン公式訪問、二国間関係、貿易関係及び安全保障問題における協力拡大のための機会模索を目的に実施された。

3 ブスティージョ外務大臣の米国訪問

12日から14日にかけて、ブスティージョ外務大臣はポンペオ米国務長官、アルマグロOAS

事務総長及びフェレル・パナマ外務大臣とそれぞれ会談を実施した。

(1) ポンペオ米國務長官との会談

14日、ブスティージョ外務大臣は米国ワシントンでポンペオ米國務長官と会談した。同会談では多岐にわたる歴史的且つ活発な二国間関係に基づき多数の議題が扱われ、両国が共有する原則や価値観が浮き彫りとなった。また、あらゆるレベルでの関係を強化し、商業的繋がりを深めるための様々な可能性が検討された。

(2) アルマグロOAS事務総長との会談

13日、ブスティージョ外務大臣はアルマグロOAS事務総長と会談し、米州大陸諸国及び国際社会全体に関連するあらゆる問題について協議した。

(3) フェレル・パナマ外務大臣との会談

12日、ブスティージョ外務大臣はパナマシティでフェレル・パナマ外務大臣と会談し、二国間関係及び両国間で協働できる案件、両国間の貿易関係及び現在の国際社会に影響を与える議題について協議した。

4 第7回エクアドル・ウルグアイ政策協議調整メカニズム会合の実施

16日、エクアドル・ウルグアイ政策協議調整メカニズム会合がエクアドルを宿主国としてオンライン形式で実施された。アチェ外務次官およびカブレラ・エクアドル外務次官は、両国の歴史的つながりを強調し、二国間関係の重要課題ならびに地域及び多国間の主要な課題等について協議した。また、カブレラ・エクアドル外務大臣は、2021年上半期にブスティージョ外務大臣のエクアドル公式訪問実現の可能性に関心を示した。次回第8回会合はモンテビデオで開催することで一致した。

5 第20回ウルグアイ・中国経済貿易協力合同委員会

14日、第20回ウルグアイ・中国経済貿易協力合同委員会のオンライン技術会合が実施され、経済財務省、運輸公共事業省、工業エネルギー鉱業省、農牧水産省、観光省、大統領府予算企画庁、国家税関局、国際協力庁の代表及び右に対応する中国側の代表が参加した。同会合では様々な協力プロジェクトについて協議され、植物検疫の認可、関税問題、貿易促進及び中国におけるウルグアイの商業的地位の強化に向けた進行中の計画に関する交渉が見直された。ウルグアイは従来の輸出品の輸出増加に関心を示すと同時に、中国に輸出可能なウルグアイ産品を多様化し付加価値を与えることの重要性を表明した。また、両代表団はサービス貿易、観光及び投資の増加に向けた可能性について一致した。

21日、第20回ウルグアイ・中国経済貿易協力合同委員会が開催された。アチェ外務次官と王受文(Wang Shouwen)中国商務次官が議長を務め、二国間の経済・貿易・協力関係及び両国間の今後の案件が見直された。ウルグアイ側は外務省が統括し、経済財務省、運輸公共事業省、工業エネルギー鉱業省、農牧水産省、大統領府予算企画庁、国際協力庁が出席した。

【要人往来】

○往訪

●12日～18日 ブスティージョ外相の米国訪問(ポンペオ米國務長官との会談等)

○来訪

●9日 プレビュール米國務長官戦略顧問